大学･高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和5年度	学校コード	F123210106463	設置等組織名	理学部理学科
大学名	名古屋市立大学	設置区分	公立		
学校種	大学	都道府県	愛知	事業計画名	既存学部の収容定員の増加

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和5年度	1-①R5年10月 多様な入学者を継続的に確保するため、入学者選抜方法の見直し開始（見直し後の入学者選抜はR9年度入試より実施） 1-②R5年10月 基幹教員を増員して採用するための具体的なスケジュールの検討開始 1-③R5年10月 生命科学コース・物質科学コース・数理情報科学コースの３コース制に拡充した教育カリキュラムへの改訂準備の開始	1-①令和５年10月 令和9年度の学部入学定員90名の入学者選抜について、一般選抜（前期日程・後期日程）および学校推薦型選抜の各定員数及び個別学力検査における入試科目について検討を開始 1-②令和５年10月 名古屋市立大学理学研究科・理学部将来構想（案）にもとづき、拡充すべき分野の教員増員スケジュールについて検討を開始 1-③令和５年10月 カリキュラム充実のため自然情報系科目（数学・情報、化学）の新規開講、および、理学部３コース制に向けたカリキュラム改訂準備の開始	令和5年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和6年度	1-④R6年5月 他機関と連携した教育体制を構築するため名古屋市や地元企業等と科目開設に向けた協議開始	1-④R6年5月 他機関と連携した教育体制を構築するため名古屋市や地元企業等と科目開設に向けた協議開始	令和6年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和7年度	1-⑤R7年6月 理学部理学科への学部学科名称変更について事前相談(文科省) 1-⑥R7年7月 特定成長分野を重視した３コース制の教育カリキュラムを整備（R9年4月より実施） 2前-①R7年6月 理学部理学科の教育を行うため、田辺通キャンパス(理学部移転先キャンパス)で理学部棟(仮称)の新築に着手(R9年3月までに完工予定) 2前-②R7年6月 田辺通キャンパスの学生数増加に伴い図書館や食堂などの施設を拡充するため、既存棟の改修及び増築に着手(R9年3月までに終了予定) ~~1-⑦R7年8月 人材ニーズを再調査するため地元経済界・高校へのアンケート調査の実施~~（R8.1.29承認）	1-⑤R7年6月 理学部理学科への学部学科名称変更について事前相談(文科省) 1-⑥R7年7月 特定成長分野を重視した３コース制の教育カリキュラムを整備（R9年4月より実施） 2前-①R7年6月 理学部理学科の教育を行うため、田辺通キャンパス(理学部移転先キャンパス)で理学部棟(仮称)の新築に着手(R9年3月までに完工予定) 2前-②R7年6月 田辺通キャンパスの学生数増加に伴い図書館や食堂などの施設を拡充するため、既存棟の改修及び増築に着手(R9年3月までに終了予定)	令和7年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	1後-⑦R8年5月 理学部理学科における教育研究の魅力を発信するため、ウェブサイト・パンフレットの新規作成(以後毎年度更新)及び広報活動の開始 1後-⑧R8年5月 増員する基幹教員の採用開始 2-③R8年4月 理学部理学科の教育を行うため、田辺通キャンパス(理学部移転先キャンパス)で理学部棟(仮称)の新築(R7年から開始しR9年3月までに完工予定) 2-④R8年4月 田辺通キャンパスの学生数増加に伴い図書館や食堂などの施設を拡充するため、既存棟の改修及び増築(R7年から開始しR9年3月までに終了予定) 2-⑤R9年3月 収容定員増加後の教育環境を整備するため、実験機器類や情報通信機器類等の整備		令和8年度自己評価：リストから選択してください。
令和9年度	3-①R9年4月 名称変更後の理学部理学科において生命科学コース・物質科学コース・数理情報科学コースの３コース制の教育を実践 3-②R9年4月 基幹教員の継続的な採用活動(学生数・院生数の増加に伴い、R13年度までに段階的に基幹教員を35名程度まで増員予定) 3-③R9年4月 基幹教員の採用に伴い、分野横断的な教育研究体制の構築開始（基幹教員の新規採用が終了するR13年度を目処に完了）		令和9年度自己評価：リストから選択してください。
令和10年度			令和10年度自己評価：リストから選択してください。
令和11年度	3-④R12年3月 理学の各分野に見識を持つ複数の外部専門家による外部評価を受審		令和11年度自己評価：リストから選択してください。
令和12年度	3-⑤R12年5月 外部専門家による外部評価の結果を受け、教育カリキュラムや入学者選抜方法における問題点を把握し改良		令和12年度自己評価：リストから選択してください。
令和13年度			令和13年度自己評価：リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価：リストから選択してください。
認可申請 又は届出	R8年4月 理学部理学科への学部学科名称変更の届出(文科省) R8年4月 入学定員90名に向けた届出申請書類「収容定員に係る学則変更届」の提出（文科省）		
定員減又は 学部等の廃止			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	名古屋市立大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学

ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学

ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学

ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反」が付されている大学

ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の〇の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。□

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件につい 令和7年度 の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の〇の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度 の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通じた教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施

□ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施

□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
名古屋市の諸機関と連携した科目の整備・実施を行う。名古屋市科学館及び名古屋市東山動植物園の実務家教員が担当する総合博物学をすでに開講しており、この科目を継続するほか、環境科学調査センターや工業研究所など、名古屋市の他の機関と連携した新たな科目の開設について、特に、リサイクル関連の研究・技術を通した授業やインターンシップの実現に向けて先方機関と協議する。今後さらに、地元名古屋市に拠点を持つ企業と連携した科目の整備・実施を行う。具体的には、東邦ガス、中部電力、日本ガイシ、NTTデータ東海、鹿島建設などの企業に所属する実務家教員が、デジタル化・グリーン化・量子革命等により到来する未来社会像や今後取り組むべき課題などについて講義する科目（仮称：理系技術が創造する未来）や、学生が地元企業の工場や研究所などを実際に訪問・見学できる科目（仮称：工場見学・企業研究者インターンシップなど）の開設を目指し、2025年度までに関係機関と協議する。なお、必要な授業科目を補うために、他大学の専門家を非常勤講師として招聘した集中講義などをこれからも継続して開講する予定である。その際に、遠隔授業の活用など教育効果のある授業体制を準備する。	名古屋市科学館・東山動植物園の実務科教員が担当する総合博物学を今年度も継続して開講した。 名古屋市諸機関や地元企業等と連携する授業科目を令和８年度から開講することを目指し、関係する機関・企業に働きかけを行なった。連携科目「なごやの環境持続性概論」については5月に「なごや環境大学」を訪問して主旨を説明し協力を依頼した。連携科目「理系技術が創造する未来」「工場・研究所・事業所見学」については、4月に「日本ガイシ株式会社」、9月に「株式会社JERA」を訪問して授業内容を説明し理解を求めた。さらに、8月に「味の素東海事業所」、12月に「東ソー四日市事業所」を学生を引率して訪問して工場見学や企業の方との対談を行い、連携科目について意見交換を行った。このような準備のもと、連携科目のシラバスを作成し、令和８年度から連携授業科目を新たに開講する運びとなった。 令和７年度も他大学の専門家を非常勤講師として招聘し、「生命科学各論」「物質科学各論」「数理情報科学各論」や「離散数学」「複素関数論」「応用統計学」などの集中講義を総合生命理学部学生に提供した。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し

□ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組

■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）

□ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）

□ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
多様な入学者を確保するために、学部学科名称をより広域的で高校生に理解されやすい名称（理学部理学科）に変更する。また、入試日程について、現行の後期日程だけでなく前期日程の追加を検討するとともに、推薦入試による募集定員も拡大する。科学技術イノベーションを強力に推進するための理系教育を行う目標を明確化するために、2025年度までに入学者選抜における受験科目を検証し、特に理科の受験科目数を１科目から２科目に増やす方向に見直す。地域の小中高校との連携については、プログラミング教室や、学内で実施する大学丸ごと研究室体験講座や高大連携授業、中高等学校への出張授業などを、これまでも活発に実施してきているが、これらをさらに継続発展させるとともに、地域の高校を個別訪問して入試説明会を積極的に開催する。なお、現状において女子学生の割合はすでに半数程度に達しているが、理系分野で活躍する女性の事例をオープンキャンパスなどで紹介し、女子の志願者増にさらに努める。また、学部留学生の受入れは、私費留学生特別選抜を実施しており、この制度を継続させて対応していく。	高校生に理解されやすい学部名称（理学部理学科）に令和９年度から改称するために、6月に文部科学省に事前相談を行い、「届出」で対応できることを確認した。また、名称変更に伴い、学則やディプロマポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを改定する手続きを進めている。 名古屋市および東海地方の高校を訪問して入試体制の変更や学部カリキュラムの充実、田辺通りキャンパス新施設への移転を広く周知した。 学部学生の入学定員増に備えるため、一般選抜においては従前の後期日程に加えて前期日程入試を導入し学校推薦型選抜の入学定員を増やすことは令和６年度中に２年前告知として公表済みであるが、令和９年度から90名の学部生を受け入れ選抜する入試業務を遂行するための体制を整えた。 R9年度入学者向けに60校の高校訪問を目標として（前年度比600%増加）、取り組みを開始した。 小中高校生向けのイベント（AI プログラミング教室、出前授業、大学丸ごと研究室体験、高大連携授業など）を開催してサイエンスの魅力を発信した。また、名古屋市瑞穂区と連携した「知って楽しむ！夏のおもしろ科学実験教室！」（8月22日）や名古屋市科学館とのサイエンスパートナーシップ講演会「未来をひらく科学の力:結晶から生命の仕組み、地球の歴史まで」（12月20日）を開催した。理学分野では男女の別なく活躍できることをオープンキャンパス(7月と11月に開催)や高校訪問・学部説明会で説明した。	

大学名	名古屋市立大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

<内訳>
(1)

改組内容	既存学部の収容定員の増加
学部学科名	理学部理学科（理学関係）

		年度		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
		改組状況		選定				増員														
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	43	43	43	43	90														
		編入学定員	人	0	0	0	0															
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	43	43	43	43															
		入学者数	人	44	45	45	45															
		女子学生数	人	20	23	18	28															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	0															
		入学者数	人	0	0	0	0															
		女子学生数	人	0	0	0	0															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	0															
	入学者合計	入学定員(A)	人	43	43	43	43															
		入学者数(B)	人	44	45	45	45															
		女子学生数	人	20	23	18	28															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.02	1.05	1.05	1.05															
	収容定員等	収容定員(C)	人	172	172	172	172															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	182	180	180	180															
		編入学者数	人	0	0	0	0															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.06	1.05	1.05	1.05															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	45	40	44																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	7	10	13	144															
		授業科目の単位数	単位	16	20	32	48															

大学名	名古屋市立大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

年度				R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
大区分	小区分	項目	単位																			
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	223	223	226	228															
		入学者数	人	224	228	232	233															
		女子学生数	人	108	113	106	131															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	0	0	0															
	その他の学期	入学定員	人	0	0	0	0															
		入学者数	人	0	0	0	0															
		女子学生数	人	0	0	0	0															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	3	0	0															
	入学者合計	入学定員(A)	人	223	223	226	228															
		入学者数(B)	人	224	228	232	233															
		女子学生数	人	108	113	106	131															
		社会人学生数	人	0	0	0	0															
		留学生数	人	0	3	0	0															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.00	1.02	1.03	1.02															
	収容定員等	収容定員(C)	人	652	732	815	900															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	686	758	839	933															
		編入学者数	人	0	0	0	0															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.05	1.04	1.03	1.04															
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	146	127	135																
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	7	10	13	144															
		授業科目の単位数	単位	16	20	32	48															

大学名	名古屋市立大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	1,025	1,025	1,128	1,130															
		入学者数	人	1,058	1,062	1,157	1,159															
	その他の学期	入学定員	人	-	-	-	-															
		入学者数	人	-	-	-	-															
	入学者合計	入学定員(A)	人	1,025	1,025	1,128	1,130															
		入学者数(B)	人	1,058	1,062	1,157	1,159															
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.03	1.04	1.03	1.03															
	収容定員等	収容定員(C)	人	3,930	4,099	4,385	4,632															
		編入学定員	人	0	0	0	0															
		在籍者数(D)	人	4,120	4,264	4,563	4,828															
		編入学者数	人	11	0	0	0															
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.05	1.04	1.04	1.04															

４.外部資金の状況（全学）

項目	単位	H30年度 申請−5年	R1年度 申請−4年	R2年度 申請−3年	R3年度 申請−2年	R4年度 申請−1年	R5年度 選定	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度 増員	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度
外部資金獲得額	千円	2,628,989	2,770,524	2,898,540	2,887,122	2,908,382	2,839,511	3,210,298	3,389,126											

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均（過去5年間における各年度の外部	千円	2,852,062
本事業による助成金の額(F)	千円	422,500
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	2,862,625

特記事項